

～1946年、ここで旧石器が発見された～

# 赤城山南麓の旧石器

Late Paleolithic In The Southern Foothills Of Mt.Akagi.



群馬の旧石器の移り変わり

# 赤城山南麓は旧石器遺跡の宝庫!!

A Gold Mine Of Late Paleolithic Site In The Southern Foothills Of Mt.Akagi.

赤城山は、群馬県のほぼ中央に位置し、かつては富士山型をした2500m級のコニーデツ火山でした。榛名山、妙義山とともに上毛三山の一つに数えられ、日本百名山、日本百景の一つにも選ばれています。中央のカルデラの周囲を1200~1800mの峰々が取り囲んでおり、その外側に広く緩やかな裾野が形成されています。この裾野には日本の旧石器時代の原点である岩宿遺跡をはじめとしてたくさんの遺跡があり、全国的にも旧石器遺跡の宝庫です。

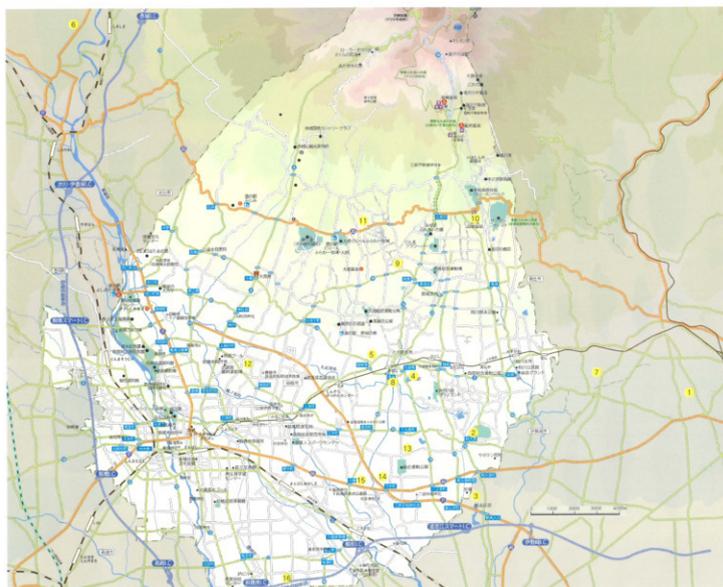


図2 赤城山南麓の旧石器遺跡

## 掲載遺跡一覧表

No.	遺跡名	時期	所在地	資料所在地	No.	遺跡名	時期	所在地	資料所在地
1	岩宿遺跡	1期	みどり市笠懸町左美1781	相澤忠洋記念館、岩宿博物館、明治大学博物館	9	市の関前中遺跡	5期	前橋市市の関町795	前橋市文化財保護課
2	内郷遺跡	1期	前橋市西大室町2510	群馬県立文化財保護課	10	榎形遺跡	5期	前橋市榎町1433-1	相澤忠洋記念館
3	下船状遺跡	1期	伊勢崎市下船町238	群馬県埋蔵文化財センター	11	石倉芳見沢遺跡	5期	前橋市石倉町2119	前橋市文化財保護課
4	馬の穴ノ遺跡	2期	前橋市神沢の森1-3	前橋市文化財保護課	12	興取権蔵寺遺跡	5期	前橋市興取町613-1	前橋市文化財保護課
5	榎崎甲真木日遺跡	2期	前橋市榎崎町530-2	前橋市文化財保護課	13	原屋遺跡	5期	前橋市鶴が谷町42-6	前橋市文化財保護課
6	上白井西伊瀬遺跡	3期	浪川市上白井町2886-2	群馬県埋蔵文化財センター	14	荒砥北三木堂遺跡	縄文	前橋市少井町306	群馬県埋蔵文化財センター
7	武井遺跡	4期	桐生市新里町武井896-1	桐生市文化財保護課、明治大学博物館	15	小泉田八日市遺跡	縄文	前橋市小泉町526-1	群馬県埋蔵文化財センター
8	三ツ原遺跡	4期	前橋市改木町532	相澤忠洋記念館	16	徳丸中田遺跡	縄文	前橋市徳丸町171	群馬県埋蔵文化財センター

# 赤城山南麓の石器の移り変わり

Chronology Of Late Paleolithic Site In The Southern Foothills Of Mt.Akagi.

赤城山南麓の石器群の変遷は大きく5つの時期に分けられます。浅間火山や榛名火山から噴出し厚く堆積した火山灰層と石器の形から、変遷をたどることができます。1~3期はナイフ形石器、4期は石槍である楯先形尖頭器、5期は細石刃を使い、先相から引き継いだ伝統を守り自然と共生する暮らしを送っていました。

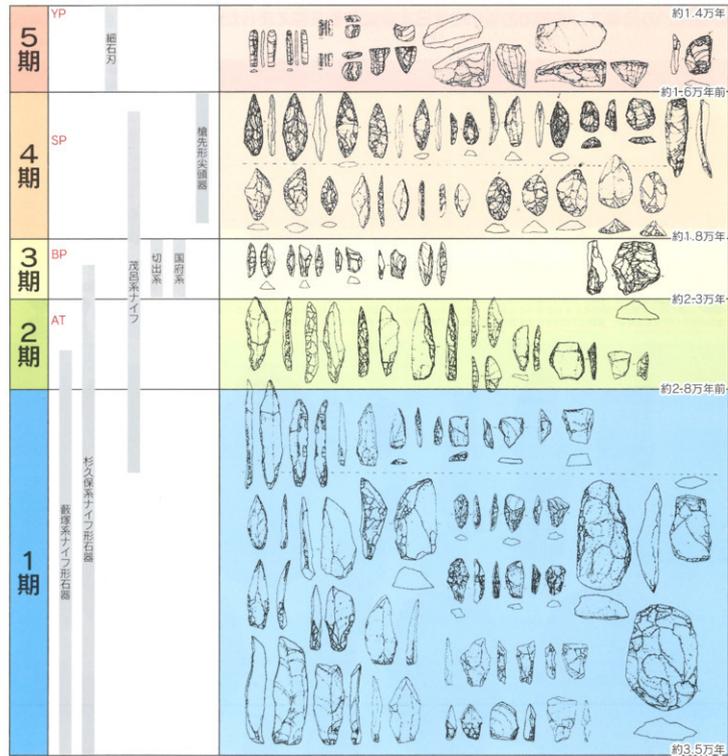


図3 群馬の旧石器の移り変わり (岩宿博物館1994より)

【火山灰の説明】 YP=浅間黄色火山灰層約1.4万年前 SP=浅間白糸火山灰層1.6-1.7万年前 BP=浅間褐色火山灰層約1.8-2万年前 AT=始良丹沢火山灰層2.4-2.5万年前

せんご あか 戦後の明るいニュース・岩宿遺跡の発見  
The Good News, After World War II, The Discovery Of Iwajuku Site.

1946年、相澤忠洋さんが赤城山南麓で発見した石器は、日本列島に「旧石器時代」という人類最古の時代があったことを実証しました。明治大学考古学研究室に届けられた一つの石器から発掘調査が始まりました。現在、岩宿遺跡Ⅰ石器文化と呼ばれた石器群は、3.5万年前とされる1期の石器です。この岩宿の調査で1期の特徴ともいえる局部磨製石斧や大型の細長いナイフ形石器が発見されました。昭和24年9月20日全国紙に掲載された「旧石器の握槓」の記事は、戦後の苦しいとき日本人に勇気を与えました。



図4 岩宿遺跡の最初の発掘 (1949年)



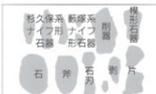
図5 岩宿遺跡の関東口～ム層

**岩宿遺跡** みどり市空穂町左美1781の稲荷山と粂平山の標高150mの小丘鞍部の東斜面に立地する。1946年に相澤忠洋氏によって石器が採集された。1948年明治大学考古学研究室による発掘調査によって、日本に旧石器文化が存在することが実証された。調査で1期、3期、4期の3枚の右器文化層の存在が確かめられたことから、その後の周年研究上で重要な対象となった。また、石器の出土状況が一定のまとまりを持つことから、環状ブロックと呼ばれる遺跡の成り立ちを研究する基本となった。石器は1968年に国重要文化財、遺跡は1979年に国史跡。石器は明治大学博物館、相澤忠洋記念館、岩宿博物館に保管。



図6 みどり市岩宿遺跡Ⅰ石器文化の石器 重要文化財

**下懸牛伏遺跡** 伊勢崎市下懸238にあり群馬県立障害者スポーツセンターの建設に伴う発掘調査で発見。遺跡は、赤城山南麓から延びる標高93mの平坦な台地上に立地する。全国で最初に発見された「環状ブロック」は径50mの大きさと国内最大の規模を誇る。環状ブロックは単円で約10ヶ所、全国で約50ヶ所を超える。調査によって上下2枚の右器文化層が判明。第1文化層は1期のもので866点。第2文化層は4期のもので2039点の石器が出土。石器は群馬文センターに保管。



しんはつけん きやうせつ き かんじやう ぐん 新発見・旧石器のむら「環状ブロック群」  
A News Discovery, Paleolithic Settlements, Circular Lithic Concentrations.

1期には「環状ブロック群」と呼ばれる直径10m～50mにも及ぶ円形の石器分布が知られています。円形内には、広場とそれを囲んだイエが建ち並ぶ集落の跡と考えられています。国内で最初に発見され、最大級の規模を持つのが伊勢崎市下懸牛伏遺跡です。

赤城山南麓は、全国的にみても1期の遺跡が多い地域といえます。大室公園にある前橋市内堀遺跡でも1期の石器がみつかりました。黒曜石製のずんぐりしたナイフ形石器を使用する集団と黒色頁岩製の細長いナイフ形石器を使用する二つの集団が暮らしていました。

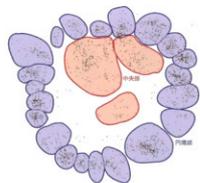


図7 伊勢崎山下懸牛伏遺跡のムラ (環状ブロック群：岩崎は約1986より)



図8 大室公園民家園の南に広がる前橋市内堀遺跡 (北から)

**内堀遺跡** 前橋市西大室町2510の標高127mの南に囲まれた古状に張り出した台地上に立地し、大室公園民家園造成工事に伴う調査で発見。AT層下の暗色帯中から、大きく東西2に分かれて石器が出土。西群は3期層に252点、南群17点を用い、東群は黒色頁岩や黒色頁岩を用い同時に形成された。経路磨製石斧1、打製石斧1、ナイフ20、台形棒石器10など314点が出土。石器は前橋市教委に保管。



図9 大室公園民家園敷地から見つかった前橋市内堀遺跡の石器

(左上長さ7.3cm)

1期から3期までは、さかんにナイフ形石器が使われます。東北日本と西南日本ではナイフ形石器の違いがみられます。北海道や東北、関東、中部の東北日本では大型で細長い杉久保系ナイフ形石器と小型ですんぐりした敷塚系ナイフ形石器、近畿以西の西南日本では黒曜石の敷塚系ナイフ形石器が使用されました。

2期になると杉久保系ナイフ形石器が減少し、茂呂系ナイフ形石器、3期には切出系ナイフ形石器へ変わります。また、3期には西南日本で国府系ナイフ形石器が使われますが、東北日本の遺跡でもみつかっています。



図10 5種類のナイフ形石器 (岩宿博物館2011より)

5種類のナイフ形石器

☆杉久保系ナイフ形石器 東北日本の1期から3期に使用された主要な石器。石刃という形の整った薄片を加工した細長い大型のナイフ形石器。石材は主に硬質頁岩や黒色頁岩、黒色安山岩が使用。

☆茂呂系ナイフ形石器 日本全域で2期から4期にわたって使用される。石刃という整った形の薄片を用い、両端を折るよう加工したナイフ形石器。黒曜石製品が多くを占める。

☆国府系ナイフ形石器 西南日本で主に使用され、3期に限られる。親身を切るように柄に削いだ薄片を使って作られ、東北日本にも広えられた。石器製作にはサササイトや黒色安山岩が使われた。

☆敷塚系ナイフ形石器 太田市敷塚遺跡の名称を冠した石器である。西南日本を中心に分布するが東北日本でもたくさん使われた。1期から2期に使用される。長さや幅の同じサイズが多く、刃は平らなものや尖ったものがある。主に黒曜石で作られる。

☆切出系ナイフ形石器 日本全域で使用された。ほぼ3期に限られる。切出し小刀の形状を似たナイフ形石器。主に黒曜石が使われた。

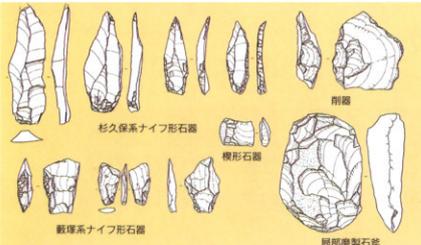


図11 東北日本のナイフ形石器文化の石器 (岩宿博物館2011より)



図12 西南日本と東北日本のナイフ形石器 (岩宿博物館2011より)

2期の後半では、ややずんぐりした茂呂系ナイフ形石器が中心となります。多くは、長野県産の良質な黒曜石を使った小型の石器です。また、1期に多数製作された石斧も使われなくなります。その他の石器としては、皮なめし用の円形の刃をもつ搔器や鉤りを持つ削器があります。ナイフ形石器を作るための技術では、石刃と呼ばれる整った薄片を使います。吾妻川流域に分布する黒色頁岩や沼田市武尊山や佐久市八風山産出の黒色安山岩といった石材は、南関東に運ばれます。関東地方全体の中で群馬が石材の供給地となっていたことも、この時期の特徴といえます。



図13 前橋市熊の穴II遺跡の石器 (左下長さ5.6cm)

熊の穴II遺跡 前橋市神沢の森1-3のプラズ前橋工場の敷地内にあり、標高163mの鹿丸山の頂上周囲にあり。A層下から、ナイフ形石器100点を含む計128点の石器が出土。石材はチャート、黒色安山岩、黒色頁岩の地元産石材を使用。石器は前橋市教委に保管。

越前甲真木B遺跡 前橋市原町530-2のベニシア大南東北東の遊技場建設で調査を実施。標高165mの高気圧に張り出した台地上から1693点の石器が出土した。主な石器は2期後半のナイフ形石器約30点、四方角黒曜石30点など。石器は黒色安山岩約783点、総重量15kg・黒曜石688点・総重量1.7kgを上限とする。石器は前橋市教委に保管。



図14 前橋市越前甲真木B遺跡の石器

(右:上長さ7.0cm)

せいなんにほんからきたこうけい がたせつき  
**西南日本から来た国府系ナイフ形石器**  
 "Kou Backed Blade" Derived From Southwest Japan.

3期の特色は、西南日本方面からの石器作りの影響が強かったことです。ナイフ形石器は幅広い剥片に斜めの刃をつけた切糸系ナイフ形石器が多く発見されます。また、石核から剥し身を切るように横に長い剥片をとり、それを仕上げた西南日本に分布する国府系ナイフ形石器が、渋川市上白井西伊熊遺跡で発見されました。3期は遺跡の減少があげられますが、度重なる浅間山の噴火活動によって生活環境が悪化したためと考えられます。



図15 みどり市岩倉遺跡II石器文化の石器 重要文化財

(右下長さ5.5cm)

**岩倉遺跡** みどり市岩倉町阿久美1781の福山と翠平山の標高150mの小丘腹部の斜面面上に立地する。1946年に相澤忠洋氏によって石器が発見された。1948年明治大学考古学研究室による発掘調査によって、日本に旧石器文化が存在することが実証された。調査で1期、3期、4期の3期の石器文化層の存在が確かめられたことから、その後の福倉研究上で重要な役割となった。また、石器の出土状態が一定のまとまりを持つことから、後にプロトコックと呼ばれる遺跡の成り立ちを研究する基本となった。石器は1988年に国重要文化財、遺跡は1979年に国史跡。石器は明治大学博物館、相澤忠洋記念館、岩倉博物館に保存。



図16 渋川市上白井西伊熊遺跡の石器

(左上長さ5.0cm)



たけい いせき きょうしよく おおがたれきぐん  
**武井遺跡の給食センター・大型礫群**  
 Barbecue Over Large Sized Open Fires At Takei Site. Large Concentrations Of Burnt Pebbles.

4期は石器数が20万点を超える武井遺跡が有名で、全国でも屈指の大型遺跡です。槍のほか、ナイフ形石器や石刃を使った削器、親指状の搔器や各種の彫器があります。また、バーベキューに使用したと考えられる礫群があります。20個程度の小型礫群が一般的ですが、武井遺跡では、600個の礫を使った直径1.5mを超える大型礫群があります。



図17 桐生市武井遺跡崖岸地区の大型礫群



図18 桐生市武井遺跡の石器 (左上長さ9.4cm)

**武井遺跡** 桐生市新里町武井886-1に所在し、赤城山南麓地域に連なる標高158mの孤立丘陵上に立地する。1953年に明治大学によって1期と4期の2枚の石器文化層が発見された。その後、ミヅハ新里工場の建設による発掘を旧新里村教育委員会が実施。1期の約1000点の石器、4期の焼先形尖頭石器群は20万点を越え、40基以上の礫群を発見。4期の石核は、チャート、黒曜石、黒色安山岩、黒色頁岩、硬質頁岩などパラスナイフに富む。遺跡の中心部9419mが整備され公開中。石器は明治大学博物館・桐生市教委に保存。



図19 桐生市武井遺跡のいろいろな石材の槍先形尖頭器

(右:上長さ3.7cm)



ふなぞこかたせつき      さいせきじんかく  
**かつての船底形石器は細石刃核**  
*Before It Was Called A Ship Bottom Shaped Tool, But Now It Is Called 'Horoka Micro Blade Core'.*

前橋市苗ヶ島町にある枅形遺跡で出土した石器は、細石刃が発見されなかったことから「船底形石器」と認定されました。昭和48年の2次調査で、細石刃が多数出土したため船底形石器は細石刃をつくる細石刃核であることがわかりました。枅形遺跡や柏倉芳見沢遺跡から発見された石器群は北ルートで入ってきた北方系細石刃石器群の仲間である幌加技法で作られ、地元産の黒色頁岩を使用しています。



図25 前橋市枅形遺跡の石器 (右下長さ11.2cm)

**枅形遺跡** 前橋市苗ヶ島町1433-1に位置し、船川と荒川間に築まれた標高415mの赤城山南麓の台地上に立地。1951年に道路工事中に石部が発見され、1951年と1973年の2回、掘削発掘が行われ、1973年の調査では、幌加技法による細石刃核19、細石刃39、磨盤16、掻器1など379点の細石刃石器群が、YPとBP間のローム層中から出土。旧石器時代の学名上、重要な遺跡である。石器は前橋市史学館に保管。



図26 前橋市柏倉芳見沢遺跡の石器 (右下長さ12.9cm)

**柏倉芳見沢遺跡** 前橋市柏倉町2119にあり、芳見沢川右岸の標高380mの台地に立地する。石器はYP直下から出土した。枅形遺跡と同様に黒色頁岩を主に用い、幌加技法による細石刃核や細石刃、磨盤など130点以上出土した。石器は前橋市史学館に保管。



とくよく      さいせきじんぎょうほう  
**特色ある3つの細石刃技法**  
*Three Characteristic Micro Blade Technique.*

細石刃技法のうち、南ルートの矢出川技法で製作された稜柱形細石刃核を持つ石器群は、市之関前田遺跡で見つかっており黒曜石を使用しています。北ルートの幌加技法で作られた船底形細石刃核を持つ石器群には枅形遺跡や柏倉芳見沢遺跡があり、大形石刃を用いた削器や搔器を併い、細石刃を含めた多くの石器に黒色頁岩などの地元の石材を使用しています。

同じく北ルートで入る湧別技法で作られた楔形細石刃核をもつ石器群には頭無遺跡や駕取福蔵寺遺跡があります。細石刃核や細石刃の他、削器、搔器などの石器は東北地方から持ち込まれた硬質頁岩で製作されています。彫器は、荒屋型彫器と呼ばれる石器で、シベリアやアラスカで発見されており、東アジアから北アメリカにおける細石刃文化の共通性を示す資料です。

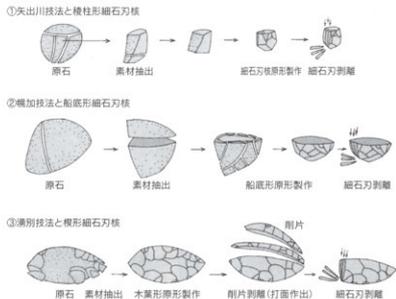


図27 3種類の細石刃技法 (尾 隆2004:1より)



図29 前橋市鳥取福蔵寺遺跡の石器 (右下長さ11.8cm)



図28 細石刃の槍 (長さ17.3cm)



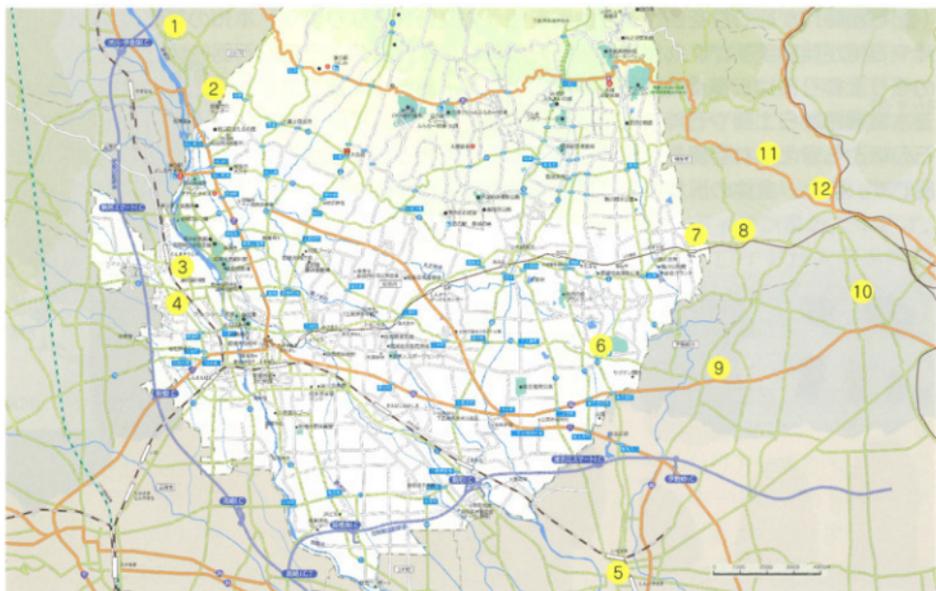
**鳥取福蔵寺遺跡** 前橋市鳥取町013-11にあり、赤城山南麓の尾に延びる標高130mの低台地の先端に立地する。は場整備工事による発掘で発見された。5期の細石刃文化の石器群で石材には東北地方の硬質頁岩がほとんどを占める。湧別技法による細石刃核5、大形石刃2、スカーパー1、細石395、磨盤磨器11、彫器削片21、磨盤11などの361点出土。石器は前橋市史学館に保管。



あかぎやまなんろく てんじしせつ あんない

# 赤城山南麓の展示施設のご案内

Information For Exhibition Facilities In The Southern Foothills Of Mt. Akagi.



## 展示施設一覧表

No	名称	所在地	電話	開館時間	休館日
1	渋川市北橋歴史資料館	377-0062 渋川市北橋町真庭246-1	0279-52-4094	9:00~17:00	月曜日、祝日の翌日、年末年始
2	群馬県埋蔵文化財センター 売店情報館	377-8555 渋川市北橋町下箱田784-2	0279-52-2513	9:00~17:00	土曜日、祝日の翌日、年末年始
3	前橋市総社資料館	371-0853 前橋市総社町総社1584-1		平成28年10月オープン予定	
4	前橋市文化財保護課総社ギャラリー	371-0853 前橋市総社町3-11-4	027-280-6511	9:00~17:00	土・日曜日、祝日、年末年始
5	相川考古館	372-0046 伊勢崎市三光町6-10	0270-25-0082	9:00~16:30	月曜日、年末年始
6	大室はにわ館	379-2104 前橋市西大室町2510	027-268-0439	9:00~16:00	4~11月一水、祝日開館 12~3月一水、祝日開館、年末年始
7	前橋市粕川歴史民俗資料館	371-0204 前橋市粕川町藤48-1	027-230-6388	10:00~16:00	月・火曜日（祝日は開館）、年末年始
8	桐生市新里郷土資料館	376-0123 桐生市新里町武井693	0277-74-3881	9:00~17:00	月曜日、祝日、年末年始
9	赤城歴史民俗資料館	379-2204 伊勢崎市西久保2-98	0270-63-0030	9:00~17:00	月曜日、祝日の翌日、年末年始
10	岩倉博物館	379-2311 みどり市笠懸町阿佐美1790-1	0277-76-1701	9:30~17:00	月曜日、祝日の翌日、年末年始
11	相澤忠洋記念館	376-0131 桐生市新里町奥沢537	0277-74-3342	10:00~17:00	月曜日、祝日の翌日
12	みどり市大間々博物館 コノドント館	376-0101 みどり市大間々町大間々1030	0277-73-4123	9:00~17:00	月曜日、祝日の翌日、年末年始
番外	明治大学博物館	101-8301 東京都千代田区神田横町1-1	03-3296-4448	9:30~17:00	8/10~16、12/26~1/7 ※8月の土・日曜日は臨時休館 ※上記開館を除く日・祝・大学の定める休日

**写真提供** 相澤忠洋記念館=図21・25  
岩倉博物館=図1・4・6・9・14~19・25・26・28・29・35~38  
群馬市教育委員会=図17~19  
群馬県教育委員会=図35~38  
明治大学博物館=図4・6・15

**参考文献** 講談社 1988 赤城山麓の旧石器  
上毛新聞社 1989 悠久への出発・岩倉遺跡40年の軌跡  
岩倉博物館 1993 第5回企画展 群馬の岩倉時代  
みやま文庫175 2004 群馬の旧石器  
新泉社 2006 赤城山麓の三万年前のムラ・下館牛遺跡  
東洋書店 2008 シベリアを旅した人類  
岩倉博物館 2011 岩倉時代 常設展示解説図録  
岩倉博物館 2010 第50回企画展 群馬の岩倉時代(上)  
岩倉博物館 2010 講座日本の考古学 旧石器時代(上)  
岩倉博物館 2011 第52回企画展 岩倉時代の東西交流  
岩倉博物館 2012 第54回企画展 人が動く、時代も動く  
岩倉博物館 2013 第56回企画展 巨大遺跡の謎を追う  
新泉社 2014 旧石器時代の発見・岩倉遺跡

~1946年、ここで旧石器が発見された~

## 赤城山南麓の旧石器

Late Paleolithic In The Southern Foothills Of Mt. Akagi



The Comuro Park

平成28年2月29日発行

発行：前橋市教育委員会事務局文化財保護課  
〒371-0853 群馬県前橋市総社町三丁目11-4

電話027-280-6511

Eメール bunkazai@city.maebashi.gunma.jp